



地域住民が総参加の富士まつりは連帯感の高揚にもってこい



コミュニティってなんぞや？まず学習会から

地域社会を を進める広見地区



地区体育祭も12回目を迎える

広見コミュニティ推進会々長、遠藤松吉さんに聞いてみました。

——「コミュニティづくり」という言葉がよく使われますが、広見地区としてはどのようなとらえ方をしていますか。

遠藤 そこの地域に住んでいる人たちが、地域における問題は、自分たち自らが解決してゆくという住民自治の意識をもつ、これがコミュニティの基本的な考え方では……。

—— コミュニティ推進会の特徴は

遠藤 どこの地区でも同じですが、地区には多くの地域団体がありますね、しかし、それを構成する人たちや受け入れるのは同じ人です。

そこで、それぞれの団体を統合し組織を一本化したことですね。

—— どのようにコミュニティづくりを進めるのですか。

遠藤 まず、何よりも大切なことは、「自分たちの地域は、自分たちの力で創る。」という住民自治意識を高めることです。それには「住民憲章」の制定なども必要では……。

*ひとこと
インタビュー*



齊藤建設大臣が視察

郷土、富士市出身の齊藤建設大臣が、9月8日、富士・富士宮市・芝川町を行政視察しました。

齊藤建設大臣は、市役所で2市1町の陳情を受けたあと、潤井川の河川改修、大沢崩、富士川橋、富士海岸、沼津バイパスなどを視察。

視察には建設大臣のほか、建設省

から河川局長、中部地方局長などと地元関係者が同行。富士海岸では、渡辺市長から海岸侵食防止工事の進捗状況の説明を受けました。同海岸の侵食防止は、建設省が41年から約32億円の巨費を投じて堤防を築いており、渡辺市長は災害防止面から早期完成を要請しました。

海岸侵食防止工事の説明を受ける
齊藤建設大臣（中央）